

知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【開催日時】平成23年11月17日（木）

13時30分～15時50分

【会場】裾野市生涯学習センター 学習ホール

1 出席者

- ・ 発言者 裾野市・長泉町・清水町において様々な分野で活躍されている方
6名（男性2名、女性4名）
- ・ 傍聴者 139名

2 発言意見

	項 目	頁数
発言者 1	富士山駅伝大会開催への支援 富士山世界文化遺産裾野市民協議会への支援	3
2	住民参加によるまちづくりの必要性	5
3	市町間のつながりによる子どものための施策の推進	12
4	いろいろな世代が交流できる子育て支援	15
5	生きがいを持って農業を続けられるような支援	21
6	食を通した子育て・観光・農業の振興	21
5	県内の食材による学校給食の実施	29
4	子育て支援活動等への公会堂の開放	29
傍聴者 1	富士山の美化活動の推進、浜岡原発の再開反対、風力発電の現状、 柿田川への植栽、ブロック塀の禁止	32
2	県東部地域における発達障害支援の充実 サービス管理責任者の要件緩和	33
3	難病入院患者へのヘルパーの派遣	37

<知事挨拶>

皆様、こんにちは。今日は秋の日差しがとても柔らかくて、すぐそばに清流の黄瀬川が流れております美しいこの地域の生涯学習センターで、裾野市、長泉町、清水町の皆さんにお目にかかるのを大変楽しみにしてまいりました。

今日は裾野市の大橋先生、長泉町の遠藤先生、清水町の山本先生、またこの地元の高田先生、鳥澤先生、県議の先生にもお越しいただいております。ちょっと緊張いたしますが、緊張しないのではないかというような顔をして笑っている人がいますが。

今朝はまず長泉町の米山梅吉さんの記念館に参りました。六角形の図書館なども見せていただいたのですが、たくさん子どもたちがあそこで本を借りて、またお母さん方が交流されるというところです。本当に米山さんの社会奉仕の精神がその記念館に生きているということがよくわかりました。3階に上がりますと、屋上から今日は美しい富士山が冠雪した姿を見せておられまして、大変、感動的な印象深い一日でした。また庭もきれいに掃除されていて、そこには「いさかいもなき漫々の青田かな」という梅吉先生の俳句も刻まれていました。非常に文化の高いところだという印象を持ちました。

その後、清水町の子育て総合支援センターに参りました。山本先生が子育てを一生懸命なさっておられますが、サントムーンという、大変大きな総合的な買い物やいろんな施設のあるところの一角で、無料で、小さなお子様を抱えてお買い物にお越しになった方々が、子どもたちがそこで遊べるように、またいわばちょっと勉強できるように、上手に工夫されて、保育士の資格を持った8名の方々が順次交代で面倒を見ておられました。私もその勉強の一環で久しぶりに保育所の先生から「読んでごらん」と言われて、絵本を読ませていただきました。そしてお母様方と、しかも無料でそこに預けられるというので、大変いい子育ての環境をつくられているということがわかった次第でございます。

そしてこちらの裾野市に参りまして、先ほどトヨタ自動車の、今はいわゆる電気自動車ですね、この電気自動車の最先端の開発、また実験されているその現場に大橋先生と参りました。最先端の自動車を運転してごらんなさいと言われてまして、しかもそこに大橋先生を乗せるという、この裾野の宝物を乗せて事故でも起こしたらえらいことだと思いながら、無事しかるべきところまで参りました。帰りは大橋先生がトヨタの誇る最先端の電気自動車を、運転はこういうふうにするものだ、もう目をつぶっているように運転されまして、さすがゴールドカードだと思いました。そしてちょうどお昼になりましてこちらに参った次第でございます。

そうすると何が待っていたか。このすばらしい発言者の方たちが、また発言者6さんが

おつくりになったお弁当が待っておりまして、一粒残らずいただきました。その一粒の粒、緑米をつくったのが発言者5さんです。緑米だけ炊くと、あれは餅米なので餅になってしまうということで、そこに雑穀米を上手に混ぜられて、今の旬の野菜を中心にして、皆さん非常においしい食事をいただきました。こういう旬のものを全部地元産で手に入れることができるというのは何て幸せなところだろうと。それはやっぱり水のおかげかなと思いますし、大地を大事にされる地域の人々の賜物だということで、ありがたく頂戴いたしました。今日は長泉町、裾野市、そして清水町の代表の方々のお話をしっかりと広聴、広く聴くということで、しっかり聴かせていただき、もし時間があれば皆様方からの御発言も聞いて、しっかり勉強して帰りたいというふうに思っております。どうぞよろしく願いを申し上げます。

<発言者1>

こんにちは。私は社団法人裾野青年会議所に所属しており、世界一美しい富士山が正面に見える場所で商いをしています。どうぞよろしく願いいたします。本日はこのように知事広聴という大変名誉な機会をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

「草木国土悉皆成仏」、こちらは、富士見の祭典で梅原猛先生から基調講演で私たちに示していただいた言葉でございます。この静岡県において「草木国土悉皆成仏」、何があるかと言えば富士山というものがございます。富士山の周辺に住んでいる方は、古来からこのシャーマニズムを体現してきておりました。そして富士山を祭る浅間大社や浅間神社を私たちは親しみを込めて「せんげんさん」と呼んでおります。ただ、その「草木国土悉皆成仏」的な大切な日本人の心が最近薄れてきているのではないかなというふうに存じます。

私は学生時代、アメリカのコロラド州というところに住んでおりました。その中で、コロラド州というのはロッキー山脈の麓なのですが、私自己紹介するときに必ず日本のどこに住んでいるかという話の中で、「マウント富士」という言葉を使わせていただきました。そして富士山は東京から65マイル、大体100キロぐらいの位置にあるのだということを言うと、皆さんは大変驚かれて、東京からそんなに近い位置にあるようなら、絶対に日本に旅行に行くときは寄ってみたいというふうに言われました。海外の人にとって富士山は日本のシンボルであるというふうに存じます。

それで、富嶽三十六景、東海道五十三次など、浮世絵がありますが、浮世絵などでゴッホとか、印象派の画家たちに影響を与えたということで、富士山というのはそれだけ大変芸術的にも印象を与えているというふうに存じます。だからこそ富士山が世界文化遺産で

あるのではないかということであり、それを私たちが見つめるチャンスが、この富士山世界文化遺産登録だと思います。

富士山を囲む静岡県、山梨県の七つの青年会議所が集まって、私ども J C 富士山会議というものを運営しております。6月にはこの裾野がホストとなりまして、富士山を世界遺産にする国民会議の運営委員長の小田全宏先生をお呼びして、そして静岡県の世界遺産推進課の松本班長をお招きして、まちづくり富士山フォーラムというのを開かせていただきました。その中で一般の方に富士山の世界遺産について勉強していただいたというか、そういう場を設けました。

ただ、富士山というのは保全していくというのが目的ではございますけれども、保全だけでなく活性化していかないといけないということで、私たちは2013年の富士山の世界文化遺産登録へ向けて、富士山の裾野を一周する富士山駅伝大会を実施したいと考えております。

その中で7月から8月にかけて私ども富士宮、富士五湖、御殿場、裾野、三島、沼津、富士、そして最終的にまた富士宮の浅間さんに戻ったのですが、その J C のメンバーが大体これが富士山駅伝のコースであろうという、あくまでも自分たちで走ってみた、試走してみたということがあります。大体178キロです。

その様子は外に展示してございますので、もし御関心のある方はお帰りに見ていただければと思いますが、その中でやっぱり私たちがたすきをつなぐというのが、日本人にとって大切な絆をつなぐとか、本当に友情を深めるとか、そういうことにつながったということと、あとやはり富士宮で見る富士山、裾野で見る富士山、御殿場で見る富士山、富士で見る富士山、いろいろな角度によってやっぱり富士山の美しさが違うということで、それを再認識したということがあります。だからこそ富士山駅伝を私どもやっていくことが非常に有益だと思います。

県の総合計画、ふじのくにづくりの中に、この東部地域の基本方針の中に1番で、医療・健康関連産業の集積と交流による都市形成、ファルマバレー構想を推進、富士山の世界文化遺産への登録取組となっておりますが、その富士山駅伝というのは、その三つの要素をすべて含んでいるのではないかなというふうに私は考えております。

ファルマバレー構想の中で、もしこの地域、富士山麓が日本のボルダーということになれば、スポーツ観光という新たな世界へ向けた柱ができるのではないかなというふうに考えます。また来るべき2013年、富士山の世界文化遺産登録を記念するイベントにもなり得るかと思っておりますので、ぜひこれ行政区域がまたがりますので困難なことだと思いますので、

静岡県さんにも協力していただきたいなというふうに住じます。

また、富士山の世界文化遺産登録につきまして、文化遺産、自然遺産と、一般の市民の方になかなか区別がつかない、浸透し切れないところが現状でございます。この現状を打破するために裾野市にある各種団体が集まりまして、11月1日に富士山世界文化遺産裾野市民協議会というものを立ち上げました。その中で裾野青年会議所も参加させていただいております。そして総会には静岡県文化・観光部世界遺産推進課さんにも参加していただきまして、総会の後に「富士山と世界遺産」と題した出前講座をしていただきました。その中で私たちにわかりやすく世界遺産について御説明していただきました。

世界遺産というのは、登録がゴールではなくスタートだというふうに住んでいます。裾野市には構成資産の候補として須山の浅間神社、そして須山の登山道などがあり、富士山世界文化遺産裾野市民協議会では、富士山の世界文化遺産登録に向けて、県や市と連携して市民の機運を盛り上げていくために、活動を今後実施していきたいと思っておりますので、引き続き御支援を賜わりたく思います。

最後になりますが、若山牧水が裾野から見た富士山を歌ったものがありますので、御紹介させていただきます。「大空の光を宿し富士が嶺の五月の雪はうす青みたる」、これは昭和3年5月に牧水が詠んだということですが、富士山を詠んだ最後の句ということになりまして、それが裾野で歌われたということになっております。そちらを紹介させていただいて、私の一度目の意見を終了させていただきます。

<発言者2>

ネットワークながいずみは、婦人の集いという名前で昭和63年に男女共同参画社会を進めるために行政主導のもとに発足いたしました。数年前に名前を現在の名前に改めまして、任意団体として男性にも参加していただいて再出発をいたしました。会員数は23名で、各々がそれぞれの任意団体の代表を務めております。

活動はいろいろありますが、今日は昨年度行いました町民議会、私たちは「わくわく議会」と名前をつけましたが、それについてお話しさせていただきたいと思っております。

昨年度、長泉町は町制50周年を記念いたしまして町民提案事業というものを募集いたしました。私たちのグループは日ごろ、これからの長泉町が、より暮らしやすく、安全なまちになるために、何か住民目線で私たちができることはないだろうかと考えておりましたので、この事業に参加して、普段思いや考えを持っていても、それを発表する場がなかった人たちに発表する場を設けてはどうかと会で考えました。

そして、それによって皆さんがどんな考えを持っているのか、お互いに知り合うために、一般町民が質問者になる議会を行ったら、町、行政、そして議会をより身近に感じて、自分たちもまちづくりに参加しているような、そういう気持ちになるのではないかと思います。土曜日から日曜日に行ってほしいという町民議会開催の企画書をつくりまして、町に提出いたしました。

町議会からは議場を貸していただくことができまして、また行政の方からは答弁者になっていただけるという快諾を得まして、質問者を町の広報紙とかポスターなどで公募いたしました。質問者は7名の方になっていただきまして、まずは事前に質問者の原稿を担当部署に渡して、質問者のその熱い思いをまず行政の方に知ってほしいと。そして議会当日できるだけ具体的な答弁を行政側からいただきたいと思い、質問者と行政担当の方の打ち合わせの場を設けました。

その打ち合わせの場を設けたことによりまして、質問者の方々は行政の方々が熱心に耳を傾けてくださったので、今まで役場というものは、住民票を取りに行ったり、何か必要な手続をするために行く場所だと思っていましたけれど、このように話を聞いてくださって、情報を与えてくれる場所なのですねと、こういうふうにも今までの自分と役場との精神的距離を近く感じたように受け取りました。

私たちが質問者の原稿の中で、その会議当日に傍聴者の方が聞いていて、わかりやすいタイミングで行政側の方に答弁していただけるように、こういうふうにも同じ質問をしてみたらどうですかとか、こんなふうにも提案を少ししたらどうですかとアドバイスすることによりまして、その質問者の思いを理解し、またそこでよくコミュニケーションをとることができました。そして議会当日、私たちの会で議場の運営、議会の進行、すべてを行いました。

土曜日に行うことができまして、傍聴者も町議会議員さんを始め、80名以上の方が見えてくださいました。質問内容は、子育てや学校や公園、文化センターなどの公共施設の改善や整備、それから道路、福祉タクシーやバス、それからボランティア活動など、様々な分野にわたりまして、質問者の方が堂々と質問を質問席でしてくださり、町長さんを始め行政の方が丁寧に答えてくださって、それを聞いていらっしゃる傍聴者の方々も、自分の思いと照らし合わせながら、何か納得しているような雰囲気を持ちました。

それで議会が終わりまして、議場を去る傍聴者の方々にアンケートをとりまして、そのアンケートの結果から、「このような議会は毎年やってくれるの?」とか、「私も質問したいことがありました」とか、それから「このような機会はほかにもどんな機会があるの

かしら」というような反響が様々ありました。これはやはり質問者の方々が本当に当事者の意識を強く持って参加して下さったことが熱意となって、皆様方に伝わったのではないかと考えております。

そのために、町の総合計画にも記載されていますが、これからのまちづくりというもの、長泉町が住みやすい、住み続けたい町になるためには、やっぱり住民が参加した、話し合いを持った、そして一緒に行動して作業する、そういうプロセスが大切になっていくと思います。町民にもいろいろな立場の方がいらっしゃいます。個人としてみますと、親として、父親として、母親として、祖父母として、それから高齢者として、就労者として、児童として、学生として、それから長泉町は遠距離通勤をしている方もいらっしゃいますから、いろいろな立場の方がいらっしゃいます。

そういう立場が違う方の意見を寄せ合い、わかち合い、課題は何かということをお互いに認識し、知恵を出し合い、話し合い、そして行動することによって、住みやすい、住み続けたいまちづくりが少しずつ進んでいくのではないかなというふうに思います。

そのためには行政と町民が話し合いを、ひざを交えて話し合いができる場という場づくりが必要になってきますし、もう一つは、その間を取り持ってくれるコーディネーターの役割というものがとても重要だと思います。私たちの会ではこの「わくわく議会」を開催することになりまして、一応コーディネーター的な役割をしましたが、そのコーディネーターも大切な役割、重要な役割であり、やっぱり難しいということは認識いたしました。ですけれども、これからのまちづくりには、やはりその話し合いの場を提供することと、そのコーディネーターの役割を担える人づくりというものが必要になってくると思っています。

私たちの会は、平成6年から続けていますフリーマーケットを明後日行いますが、そのフリーマーケットの際に、やはり参加して下さった人々にアンケートをとりまして、今皆さんが何を一番関心を持っているか、今どんなことを住民が自分を当事者としてとらえているか、また何が必要とされているかを把握して、そこから私たちの会はこれから第一歩を踏んでいきたいと考えております。

<発言者1、発言者2に対する知事のコメント>

ありがとうございました。

発言者1さんから富士山を中心にしたお話をいただきまして、大変感銘を受けました。もう冒頭から「草木国土悉皆成仏」という本当に難しい言葉だと思います。草木も国土も

皆ことごとく仏になれるというこれが日本の自然信仰だと。通常一寸の虫にも五分の魂、虫とか生き物にはいいますけれども、草木、植物にまで成仏するという言い方はしないと。しかし日本の伝統の中には発言者1さんがおっしゃったように、「草木国土悉皆成仏」という言い方があって、草木もすべて生きとし生けるもの、そして国土というこれを象徴しているのが富士山だというのが梅原先生のお考えなわけですね。国土、日本の国土を象徴しているのは富士山だと。富士もまた仏だという言い方をするわけです。

これが普通の自然遺産と違うところなのです。日本で最初に自然遺産になりましたのは白神山地というところですね。ブナの森があるところですね。あそこは秋田県と青森県の県境でして、つまり秋田の中心からも、青森の中心からも一番遠いところで、人が入っていきなくて、入っていけるのはマタギという狩りをする人とクマだったと。その本当の自然しか残ってない。

なぜ自然が残ったかという、ブナを、これは戦後にパルプにすることができるという技術ができて、ブナ林も相当切りました。ところが切りに行くにはあまりにも遠いということで、人の心が入らない、手入れもできない、だから自然がそのまま残ったと。それが自然遺産です。

一方、屋久島も、標高 1,900 メートル以上の九州で一番高い山があるところですね。周りが 100 キロほどしかありませんから、ものすごく住みにくいので、ヤクザルとかヤクシカが棲んでいるという、そこは人が行ってもあんまり驚かないですね。人がいじめるということをしてないところですから、だから人の心が入りにくいところですね。だからここは自然が残っているのが自然遺産と。

これはどうでしょうか。最後に発言者1さんは若山牧水のお歌を、富士山のこの裾野から歌われた歌を御紹介いただきましたけれども、富士山が人の心を打ってそれが文化といえますか、和歌になると。じゃ若山牧水が沼津に居を定められたのは、この人は宮崎県の人ですから、若山牧水に始まったかという、もうこれは日本で知られている最も古い歌集が万葉集ですけども、そこにほとんどの人が御存じの「田児の浦うち出でてみれば真白にそ不二の高嶺に雪は降りける」という、これはまた新古今で、いわゆる小倉百人一首の中に入りまして、「田子の浦にうち出でてみれば白妙の富士の高嶺に雪は降りつつ」というふうにならば文句が変わり、だれにも多くの人に親しまれるようになった。つまり奈良以前からずっと詠み継がれてきたという文化を生む山なのです。人の心をとらえるそういう山だと。

同時にそれは山部赤人の短歌の少し前に長歌というのが書かれていますが、直前に、「天

地の分れし時ゆ神さびて高く貴き駿河なる富士の高嶺を 天の原振り放け見れば渡る日の影も隠らひ照る月の光も見えず白雲のい行きはばかり時じくを雪は降りける 語り継ぎ言い継ぎ行かむ富士の高嶺は」と、つまり天地の分かれたときから、神のごとく高く貴き駿河なる、神のごとく高く貴きと言っているのです。つまり信仰、畏敬の念を及ぼすようなそういう存在だと。

信仰という人間だけが恐らく宗教を持っていると思いますが、そういう人間の心の最も大切な信心というもののもとになり、また和歌とか、あるいは絵画とか、あるいは文学とか、最近では写真もそうですが、そういうものの源泉になっていると。信仰の対象であり、文化の源泉であるということから、これは白神山地とか屋久島とは違う文化的自然ですね。だから世界文化遺産なわけです。特別な山なのです。

この特別な山はここだけにあるかという、利尻富士だとか、蝦夷富士だとか、津軽富士だとか、南部富士だとか、伯耆富士、近江富士、薩摩富士、もう 340 ほど、北は北海道から南は沖縄に至るまで、何とか富士と名のつくふるさと富士があるわけです。つまりどなたにとっても富士山というものを自分のところに似たような山があるということのことを思うことが、ふじのくにに生きる日本人としての共通性という、それはだれかが強制して何とか富士をつくれと言ったわけじゃなくて、自然にでき上がっていったものです。だから日本人の心をとらえて離さない、そういう山だから他と違ってこれは自然でありながら文化遺産だと。非常に特異な、類いまれなる美しさを持つ、そういうようなわけですね。

その富士山駅伝をするために、あちこち行かれたら、富士山もいろいろ違って見えます。今日は長泉町長の遠藤先生と御一緒に、米山梅吉さんの記念館に行きましたが、まず一番上に行けとおっしゃった、富士山が見えるからと。そしてぱっと屋上に行って、遠藤先生が何をおっしゃったか、「すばらしいでしょう、これが一番だ」と、こういう言い方をされるわけです。

しかし、人によっては、ここから見る富士山が一番きれいだとか、自分の物干しのところから見る富士が一番いいとか、三保の松原だ、あるいは日本平だ、要するにすべての人が自分の最高の富士山の場所を持っていると。最高ですよ。最高が幾つもあるということはどういうことでしょうか。言葉の矛盾みたいなものでしょう。それを全部許してくださるわけです、富士山は。なるほど、ここから見ても最高、うん、わかるわかるというふうに言えるから多様性の和なのです。日本は「和をもって尊しとなす」というふうに言いますが、和の文化、これを文字どおり自然によって教えてくださるそういう存在です。

そういう意味で、これは本当に文化遺産だと。これがいよいよ2年後には世界文化遺産

として登録される運びに、今手続が進んでおります。そのときを記念して青年会議所として皆さんと一緒に駅伝をやりたいというのはすばらしいなと思います。

皆さんは静岡県の誕生日はいつか御存じですか。静岡県というのは誕生したときがあるのですよ。明治9年8月21日なのです。それぞれ自分の誕生日、あるいは自分のお父さん、あるいは自分の子ども、あるいは自分の会社、自分の学校の創立記念日を知っているはずですよ。

それで、私は1年に1回ぐらい富士山を大事にする、ふじのくにという言葉もあるぐらいですから、その誕生日を思う日をつくった方がいいと。そしたらいつでしょう。一番わかりやすいのは「ふ・じ・さん」ですから、しかも「ふ・じ・み」とも読めるでしょう。このような富士山をいつも身近に見ているから、あまりどうということはないと。しかし1年に1回ぐらいは誕生日というふうな意味合いを持って思う日があった方がいいと。そうすると富士山の日ということ。

そしたらここにいらっしゃる高田先生、あのときは鳥澤先生はまだ議員じゃなかったですけども、民主党、自民党、それから公明党、共産党、無所属の方、すべて一人残らず全員賛成でした。さすがですね、富士山の力は強い。それでその日、富士山の日には何か一緒にするということを通して、富士山を大事にするという文化を育てたいというふうに思っています。

そういうことをきっかけにしつつ、特に2年後には大きな世界的な富士山が世界遺産になったというのが全世界を駆け巡るでしょう。私、昨日、中曽根御大、中曽根康弘氏から「わしは中学のときに静岡一中を出た。心のふるさとなっている。あれを世界文化遺産にしないと死ねない。川勝君、頼む」と言われて、ぱっと帰られて、東京で激励を受けて帰ってきたわけです。ですから、もうこれは再来年は何としてでも通さないといけません。

そういうこともございますので、駅伝もそのうちの一つであろうということで、今日は関係の首長先生もここにいらっしゃいますから、うーんとうなずかれていますので、協力しようということで、できる限りの協力をしてみましょう。それ以外にもいろいろございますので、全員でやっぱり一番のふもとにいる人たちがこれを大事に、特に来年はユネスコから専門家が見に来ます。それがアジアの顔をしている人か、青い目の人かわからないのです。だからだれかれとなく、これがひょっとしたら審査員の一人かなということで、もう最高の笑顔でお迎えいただくと。要するに日常の自然体でいいわけですけども、そういう大事な審査員が来まして、再来年、1年に1回だけ開かれ、富士山の世界文化遺産が決まるという、それを大事にしたいとおっしゃっているので、これはこの志、青年会議

所の志はすばらしいものだというふうに思いました。ありがとうございました。

それから発言者2さんは、もうネットワークながいずみを立ち上げられた。しかも女性だけといいます。最初は男女共同参画ということで男中心でございましたから、長泉町の議員の先生のうち女性は何人いらっしゃいますか。(「いません」) いないというのですから、「わくわく議会」の中心は恐らく女性だったのではないかと思うのですが、やっぱりこれバランス保たないといけないというわけですね。

バランスを保つときに、やっぱり知恵が要ります。大体議会は土日は開催してないですよ。「わくわく議会」は何曜日ですか。(「土曜日です」) 土曜日ですか。ですから議会とバッティングすることはないと。それでノーと言ったら後が怖いですね。だから議員の先生も使っていないし、よろしいでしょうと。土曜日ですからだれでも来れる、主婦も来れるということです。

それは大変大事なことで、もちろん議会で議員の先生方が、市民の、あるいは町民の代表としてしっかりと町の行政を監視され、施策も提言されるわけですが、一方で、今たまたま長泉町の場合は男が多いということであれば、どこかバランスがとれていないようなことがあるかもしれない。その町の行政をあずかる方々が答弁に立って、いわば生活実感のこもった質問をされて、それに真面目に答えられると。いや、答えるどころか、必要であればそれを施策として実行していくということに結びつきつつあるということですので、すばらしいと思います。

私ども県は事業仕分けというのをやっています。これは県の政策といっても何千もありますから、そのうち大きなお金を要するものを選びまして、それについての資料をお渡しし、県民の皆さん方に徹底的にたたいていただくと。それを参考にして今度は議会で先生方にこういうふうを考えるけれどもどうですかというふうにしていただく。これは我々の方からこういう政策をしておりますけれども、皆様どういうふうに思われますか。そしてぼんと言われて、答えて、答え切れない場合も、ちゃんと答えられる場合もあるでしょう。「わくわく議会」の場合には、町の方からではなくて、いわば市民の方からぼんと言って、町が答える、両方必要ですね。

税金で仕事をしているわけですので、いろいろな声をいただく必要がある。そのいろいろな声は基本的に議会で保証されているのですが、それがパターン化したりしている場合がまま見られますので、そういうことに気づかせるということのためにも、こういう試みというのは大事です。事業仕分け、あるいはこういうわくわくするような初めて議場に入ったとか、あるいは人の前で質問するとか、そういうようなことってなかなか勇気の要る

ことです。そしてその質問もパターン化してないと思いますので、答える方もパターン化した答えの仕方ではできないということで、こうしたことはそれぞれ工夫しながら、行政を市民の生活の中におろしていくということは本当に大切だと。基本的には自分たちのまちを自分たちでつくっていくという、そういう文化をこの地域でつくっていくための一つのすばらしい成功した試み、しかも長泉町 50 周年というこれはもう歴史に残るものになったと思いますね。

50 周年のときにこういうことをしたということで、後々長泉町史などに書き込まれるような話だというふうに思います。こうしたことを今男の人も入ってきたということですので、誠に結構なことです。男女共同参画で女性がオープンにして男の人も入れる、また男中心のところも女性をなるべく活用して、一緒に全体の幸せ感を上げていくということが大事だということで、きょうはお二人とも、それぞれ裾野、長泉と市町は違いますけれども、お志は共通しているところがあって、大変勉強になりました。ありがとうございました。

< 発言者 3 >

私は子育て応援グループ「たちち」というグループにおります。どんな活動をしているかと申しますと、基本的には生後 6 カ月以上の幼稚園に行く前まで、0 歳から未就園児のお子さん、その保護者の方たちを対象にした親子の体操教室を開催しております。

スタッフが全部で 10 名おりまして、現在もスタッフ自身が幼稚園児や小学校、中学校の子どもを育てている現役子育て中の、なおかつ独身時代に幼稚園や保育園で働いていました、小学校の先生をしていました、スポーツクラブでインストラクターをしていましたという現場経験のあるお母さんたち 10 名集めて活動しております。

主な活動場所ですが、まずは私が住んでいる清水町からスタートしました。当時私の下の子が幼稚園に上がったときに、とにかく甘えん坊な息子だったので、毎日毎日抱っこ、毎日毎日チュチュ、チュチュしていたのが、ある日突然幼稚園に入園したら振り向いてもくれなくなってしまいました。

ものすごく私自身が寂しくなってしまうと、ある日、息子に今日幼稚園休んでくれないかとだだをこねるぐらい私自身が寂しくなってしまったなあなんてつぶやいたら、幼稚園で同じクラスになったお母さんたちから、私もそうなの、私も家に帰って一人ぼっちが寂しいのなんていうことがありました。お母さん同士で話をしたら、もともと私は保育士でした、もともと小学校の先生でしたなんていうことがわかったので、じゃそういうお

母さんたちが集まって何かを始めようというのがきっかけでした。

最初は自分たちでチラシをつくって、こういうことをしますから、ぜひ町の体育館に集まってくださいなんていうふうに言ったのですが、そこに大きな壁がまずありました。公共の体育館は2歳以上でないと利用できないと言われたのです。何ですかと言ったら、体育館はスポーツをするところだから、0歳の子どもはスポーツできないじゃないかと。まあ、そう言われればそうだなと思ったのですが、あっちこっちかけ合って、何とか児童館、小さい子たちが集まる児童館というところで、話を認めてもらって、ようやくヒヨコ体操教室というのを開催しました。また1年ぐらいたったときに、児童館の職員の方が2人定年退職で同時にやめてしまい、ついでに児童館を閉鎖しますというお話になってしまって、また私たちが活動場所をあっちこっち頭を下げて、貸してもらえませんか、会場を貸してもらえませんかと言っても、全部ノー。

そのとき、たまたま私が子育て未来大賞の奨励賞をいただいて、そこにいらっしゃる山本町長に表敬訪問に行った際に、ちょっと隣にいた担当の方がつつくので、愚痴ってみました。こういうわけで活動する場所がなくなってしまったんです、半年前から探しているんですというふうに。そしたらそのときにすごく感銘を受けてくださった町長が、それはおかしい。0歳の子だって2年たったら2歳じゃないか。清水町民になっていくメンバーの一人なのにそれはおかしいと言ってくださって。なぜか次の日には体育館が1年分全部予約してくれてありました。私の半年間は何だったのだろうと思いましたが、そこが皮切りです。

現在8年ぐらいやっていますが、清水町での教室が、お母さんたちの口コミで、こんなことしている団体があるんだって、楽しそうなんだよなんていうのがぼーんと沼津市に飛び火しました。今度は沼津市から依頼がありまして、0歳のクラス、1歳のクラス、2歳のクラスと、三つの教室が一遍に増えました。そしたらまたぼんぼん、ぼんぼん飛び火して、現在では8割強がリピーターさんの教室となっています。

小山町、裾野市、清水町、沼津市、三島市、伊豆市、函南町、これぐらい広い地域で、おかげさまで手前味噌で申しわけないんですが、親子体操のお教室やイベントを開催させていただいております。スタッフの方も10人いないと、同じ日に3会場でお教室なんていうことがありますので、手分けして行っています。

人間が人生の中で一番運動神経が発達すると言われているのは、生まれてから歩くまでと言われております。だからといって首が座ってないお子さんにでんぐり返しはさせられませんので、ある程度落ち着いた6カ月以降から私たちのお教室は開始しております。そ

して3歳になって幼稚園に入りますよという一步手前まで親子で、三つ子の魂百までですから一生懸命お母さん面倒見ましょうよということで、私たちは子育て支援グループではなくて、子育てを応援するグループということで、あえてこだわって応援グループ「たち」とさせていただいております。

今日知事が視察に行ったサントムーンの中の総合支援センターもあるように、清水町はとても子育て支援が盛んです。毎日どこかの幼稚園、保育園、それから支援センターでイベントを行っています。ただ、私たちこの応援グループからしてみると、ちょっと方向性が違うような気が最近してまいりました。

なぜかという、支援センターに行くと、時間になると先生たちが、それこそ絵本を読んでもくださったり、歌を歌ってくださったり、夏だったら七夕の何か飾りをつくったり、2月だったら豆まきをしたり、行けば何かをしてくれます。それに慣れてきてしまっているお母さんたちがちょっと最近多いような気がします。

ですので、私たちのお教室に来たときに、まずお母さんたちは、私が喝を飛ばすのでびっくりします。まず「今日ここのお教室に来ることをお子さんに説明してくれましたか」、半分ぐらいの方が「してない」と言いますね。してない子に限って、ぐずぐず、ぐずぐず、ひっくり返ってばたばたしています。

それはそうです。寝て、いきなり無理やり起こされて、お母さんの好きな洋服を着せられて、寝ぼけながら口の中に物を突っ込まれて、終わったかと思ったら歯ブラシくわえさせられて、ベルトくっつけて、着いて、ここで「はい、体操」なんて言っても、知らない人ばかりの中でいきなり体操する気分には大人もなれませんよね。なので、子どもさんを一人の人格として、まず扱っていくところから始めています。

スポーツ観戦を好きな人がいれば、スポーツをするのが好きな人もいるように、子どもも自分が体を動かすのが好きな子もいれば、たまたま今日は見ていたい子もいる。その気持ちをお母さんわかってあげましょうというところで、ぐずぐずしても、お尻はひっぱたかない。申し込んだのはお母さんですから、子どもに今日は来ていただいただけでもありがたいという気持ちを持ちましょうなんていう話をします。

それが積み重なって0歳から幼稚園入る前までのクラスを経験していくと子どもが変わってきます。あっ、お母さんは自分の気持ちをちょっとわかってくれるのだとか、子どもが機嫌よく体操してくれると、お母さんもうれしいので、お母さんも一緒に動きます。そうするとアンケートをとった結果、前は公園に行ってもお母さん同士でしゃべっていて、子どもが勝手に砂場で遊んでいたのですが、今では自分が先頭を切って、ブランコに行っ

てみようか、鉄棒触ってみようかなんていうようになりましたと。おかげでお母さんもちよっとダイエットになったなんていう話も聞こえてまいりました。

現在では、昔で言う1学期、2学期、3学期と考えた場合に、1学期だけで大体400組くらいの親子さんたちと私たちと体操教室して、年間で1,000組以上になります。今度、また小学校の学習指導要領の低学年の部門で、体育が運動遊びという項目に変わったのは御存じでしょうか。体育ではなく、運動遊びです。楽しみながら体を動かすことによって、脳にもとてもいい刺激がいきますよということがわかってきました。

人間は生まれ持って欲というのを持っています。睡眠欲、食欲、排泄欲、性欲、ですが感情というのは生まれ落ちて体験しないとないものなので、例えば転んで痛いけど頑張ったとか、何回も失敗したけど練習したらできたという達成感、それからできたらうれしい、できなかったら悔しい、ほめてもらえた、そういう感情というのが後から備わってくるものなので、幼稚園に入るまでにどれだけその感情を外部から刺激を受けたかによって、その子の将来は決まると言われています。

そういう大事なお教室を事業仕分けで実はカットされてしまう場合もありまして、これだけ人気があって、今抽選するような状態になっているお教室、沼津市は来年度から全部なしになりました。その理由が、管轄である保健センターで運動は必要ないと。そう言われてしまえばそうなのですが。じゃ体育館で引き取ってくれるかなと思ったら、前例がないからやらない。たまたま清水町は体育館が今耐震工事入っているの心配になりまして、来年どうかなと思ったら、清水町はやりますよと言ってくださったので、とてもありがたいと思っています。

このように一つの親子体操をとっても管轄が違っていると、プラスになったりマイナスになったりすることがありますので、子どもたちの先のことを考えて、行政の方は横のつながりもちよっととっていただいて、プラスの方向に事が進むようにしていただけるとうれしいなと思っています。よろしくお願いします。

<発言者4>

「プレイグループなめり」で子育て支援活動をやっていますが、なぜ私がこういうことを始めたかをちょっとお話しさせていただいき、その後活動の内容をお話ししたいと思います。私自身長泉町納米里の住民で、結婚しまして駿東郡小山町の知的障害者施設に勤めておりました。そこで長男を出産し、そこの理事長が私の夫にイギリスに博士号を取りに行かないかということで、イギリスに3年間行くことになりました。

そちらに行きましたら、いわゆるプレイグループというような活動が、各地大きな公会堂、小学校の体育館ほどの広さの中で、プレイグループというのが各地にありました。後で調べてみましたら、オーストラリアとか英語圏のところにはみんなあったのですが、その活動が週に2回ありました。今長泉町も9月から始まりましたが、ファミリーサポート事業のような、近所のおばさんが困ったときにすぐ助けてくださるというものがありました。日本語の通じる方もいなくて、私も学生の身分でお金もなく頼る方もいなかったもので、その方に週に何回か預けて、英会話学校に行ったりとか、お友達に情報をいただいたり、遊んでいただいたりとかして、3年間過ごしました。

イギリスでは、長男は今25歳ですが、長女21歳を出産育児しました。そのプレイグループのお友達やファミサポに当たるそのおばさんたち、近所の方たちがとてもよくしてくださって、とても充実した子育てをした3年間でした。

帰国して施設に戻り、その後長崎の大学に就職した夫とともに長崎にも4年ほど行って、また長泉に戻ってきましたが、子育てをする中で、あれ、何かイギリスの方が楽だったかもって実は思いました。おかしいなと思って、私も友達づくりが下手だったのかどうかわかりませんが、納米里公園に行ってもだれもいないや、どこに行こう、おもちゃ屋さんに行けばいいのかなとか、いわゆる子育て難民になりました。子育て難民ではありますが、上に子どももいましたので、いつか私もプレイグループやってみたいなと、ずっと思っておりまして。

2006年に子ども会の会長をくじで引いてしまいまして、1年間地域の方にかわいがっていただきました。そのときの区長さんと副部長さんに、私恐る恐る実はこういう活動をしてみたいのですが、地域の皆さんの居場所づくりですということで、「公会堂を貸していただけませんか」と言ったら、「どうぞ、どうぞ」と言われて、2007年の5月から週に1回木曜日、実は今日も今活動から途中抜けてきましたが、9時半から大体12時半、1時とか、そのぐらい活動しています。お盆とお正月以外、休みなしでやっております。

私がイギリスで過ごしたときに、つたない英語でも、みんなが仲間に入れてくれたということがすごく経験としてあって、ありがたかったなと思っています。その中でだれにでも平等であるということとはとても難しい。難しいですが、実は簡単ではないかと思えます。私の活動は朝9時半に公会堂に行って鍵をいただき、鍵を開けて、置かせていただいているおもちゃを出して、掃除機かけて、みんなを待っているだけなのです。

みんな三々五々、勝手な時間に来ます。出席もとりませんし、何時に来て、何時に帰っても構わないですね。大体12時半ごろ、お花見ができるころは、そこの納米里の公会堂の

ところにコンビニがありますので、お弁当買っておいでということで、2時とか3時ぐらいまでお花見をしたりします。これももちろんボランティアです。ただ、こんなことをしているの、私は「楽しそうなことやっているね」って、子育てが終わったお母さんたちが7人ほど順次来ます。それで「あっ、楽しそう」とか、「おうどんつくるけど、みんなに食べさせない?」とか言って、お食事が、口に入ったときには50円とかいただいて、それで活動しております。

守ってほしいことは納米里区民の方であること、車で来ないこと、そして預かる場所ではありませんから責任を持って参加すること、あと宗教、政治活動、物品販売等、ここの教室はいいですよ、あの英語学校がいいですよとか、そういうことはしないでくださいという約束を守っていただいています。

どうしてかという、先ほどもお話しましたがけれども、子育て難民なのです。多分皆さん御立派な方ばかりいらして、自分に所属がないという状況がなかなかわからないと思います。

所属がない。親になって、育休・産休中の方もいます。お嫁さんが働いているから、お嬢さんが働いているから、おばあちゃんが連れてこられている方もいらっしゃいます。自分が結婚して仕事を続けていたけれども、出産で仕事をやめて所属がなくなるということは、私もイギリスでそうでしたが、仕事をしたいけれども仕事ができないとか、いろんなことがあるわけですね。

所属がなくなったときのこの不安な気持ちというのをどこでまとめたらいいいのかという、今、年間延べ人数で1,800人以上私のプレイグループに来ます。今日も25組くらい来ておりました。わいわいやっていますが、納米里区民以外の方も対象とすると公民館にたくさんの方が集まり大変御近所迷惑になります。また、車で来ないということはとても大事なことで、週に1回だけ、ここで顔合わせたら、その後おもちゃ屋や駅、いろんなところで顔合わせて、「ああ、どうしているの?」って必ず言えます。私がつくっているのは居場所づくりであるし、人のつながりだと思っています。

こんなことをして、もう半年もしないうちに、「時間ありそう」って民生委員が来ました。民生委員の仕事を今2期目、4年目です。この中で、環境・健康・子育て、私は次に高齢者、遠藤町長がおっしゃっている高齢者の部分に入ってくると思います。私は子育て支援だけというよりも、人をつなげる方法として実は考えているのです。

公民館では、夏はみんながプールを出して、大騒ぎしていますし、皆さんの目につくようにしています。子どもがこれだけいるのですということを皆さんにわかっていただくた

めに。そうすると、一人暮らしの方に、「何か楽しそうなことやっているのね」と言われます。「来たいわ」なんておっしゃってくださる方もいらっしゃいますが、「じゃお迎えに行きましようか」と、民生委員として「お迎えに行きましようか」と言ったら、「でも、倒されて転んじゃって怪我するとやだわ、困るからちょっとやめておくわ」とおっしゃいます。私の理想としては世代をつなげていく子育てだと思っています。

私の子育てはうつぶせ寝でした。今うつぶせなんかありませんね。時代は変わっていきますから、子育てを強要はしません。私スタッフに言っているのは、「今はね、お口移して食べ物あげちゃいけないだよ、虫歯菌がうつるから」、そういうことも「こんなのは大丈夫、適当というふうにはしないでね」ということも言っています。実は長泉町にある小児科の先生がいらっしゃいます。その先生の長泉町の救急医療を考える会に呼んでいただきましたが、その中で先生が、「お願いだからティッシュペーパーを食べたぐらいで救急車を呼ばないように教育してくれ」と話されていました。

プレイグループなめりでは、私の喝がしょっちゅう入ります。でも、それは彼女たちにそれを聞く機会が与えられなかっただけであり、子育ては、ヒヨコが最初に見た踵（かかと）の後をついていくのと一緒に、ある程度、みんなの伝承を伝えていくことが大切だと思って、プレイグループをやっています。その中にできればいろんな世代の方が入っていただいて交流ができるようなものを今後もやっていきたいなと思っています。

<発言者3、発言者4に対する知事のコメント>

お二人のお話を、非常に喝を入れられるような感じで聞いておりましたが、本当に学ぶところがたくさんあったと思います。

発言者3さんの場合は、そのお母さん同士の集まりで、元保育士であった方だとか、学校の先生であった方とか、もちろん御自身も運動をするための体操の指導者の資格も、レクリエーションのインストラクターの資格もお持ちで、いわば専門的な知識に裏付けられて、子どもの発達が歩くときまでに大事だと。また歩くようになって、今度は3歳ぐらいになるというときにいろいろなものが発達すると。これは脳神経もそうですけれども、大体90%ぐらいまで3歳までで発達しますね。そうして18歳ぐらいまでで98%ができる。20歳前後までで100%近くいって、あとは発達しないと。皆さんそうでしょうか。

要するに小さいときに脳細胞がばあっと分裂して、そこにどういうものを入れていくかということが脳においても大切だと。それは当然脳だけでなく、体全体についてそうなので、どういうものをしっかりと、いわば科学的な知識に基づいて子どもたちに与えるか

ということで、この体操教室を始められていると。今は運動遊びと言うそうですけども、これをわかっていながら、それを社会がわかってくれなかったときに、たまたま山本町長さんが、ぱっと言われたというので、さすが山本さんと。よかったですね。

私は今日たまたまその一例で子育て総合支援センターを見させていただきましたが、ここでもアンパンマン体操というのを子どもたちと一緒にさせていただきました。それから読み聞かせに変わるときに、保育士の先生が上手に、雰囲気を変えられました。これから読み聞かせに入っていくための体の準備、心の準備をさせる、そういうことをなさって、しーんと最後になったときに、そこから先生がおもしろいお話をして、そしてそれを子どもに繰り返させるということをされている。

そこに来ているのは0歳から保育園に行くまでのお子さんが多く、私がお話ししたお母様方、「幾つですか」「この子まだ9カ月です」と。そしてあるいは8カ月ですというお母さんがたくさんいらっしゃいました。そして3歳ぐらいのお嬢ちゃんやお坊ちゃんもいらっしゃいましたけれども、「いつぐらいから来られていますか」「5カ月だったか6カ月ぐらいからこちらに連れてくるようになりました」というふうに言っておられました。いわば0歳児ですね。そういう0歳児の受け入れをシャットアウトされかけたところを山本町長さんが救われて、これが社会運動として広まっているということがわかりましたので、これはもっと静岡県全体、さらに日本全体に広げていくべきことではないかというふうに思った次第です。大変勉強になりました。

そして発言者4さんのお話は、いわば本当にそれと連動する話で、しかもイギリス、あるいは長崎、そして今長泉と、あちこち渡り歩かれて、そうした中で母親が居場所がなくなるということの不安感から、どのようにすればいいかといういわば自分自身の問題というのを踏まえた上で、居場所づくりというのをしていかれたということですが、これも既にイギリスでの体験があるので、一種の国際性がありますね。

子どもをお母さんだけで、あるいはお父さんだけではなくて、地域で育てる、地域の母親同士のネットワークの中で、あるいは専門家を入れた中で、あるいは母親経験者を入れた中で育てるという、それが成功している例を示していただいた。今どういうふうになれば成功できるかと。発言者4さんの活動が立派なので、この若さで民生委員にまでなっておられるのですから、私もこの人に知事褒賞をあげました。大したものです。

つまり静岡県の誇る子育て、こちらは支援、あちらは応援と、それぞれ頭の中に明確なイメージがあってなさっておられると。もちろんお母様方はそれをどちらでも選ぶことができますので、そういう選択肢も含めて多い方がいいですよ。そして大事なことは、子ど

もがしっかり大きく育っていくということで、その中でお母さん方のネットワークができて、地域コミュニティができて、地域力がついていくと。

そしてお母さん方に喝を入れることができる、つまり教育をするという。やはり先生だけではなく、大人はすべてそれぞれの経験を生かして、新しく子どもが生まれた、あるいは家庭を持ったときに、わからない記憶の中で教えてくれる人がいるということが本当にありがたい。そういう意味で地域のそれぞれが自ら誇りを持って何か役に立つことをするということのモデルを、今日は二つ聞いたのではないかと思います。

その結果と言っては何ですけれども、長泉町は静岡県 35 市町がありますけれども、合計特殊出生率という、これは子どもを産めるような年齢になってから産めなくなるまで、女性が一生の間に何人子供を産むかという、その数字が 2.0 ぐらいにならないと人口が減っていくのですが、日本全体で今 1.3 ぐらいです。それよりもはるかに上回り、長泉町は本県トップです。それから裾野市も 1.6、清水町も平均よりはるかに高いです。

いずれにしても、まだこれでいいというわけではないですよ。やっぱり 2.07 までいかないと、子どもの数が減り、だんだん活力がなくなっていくということです。いわゆる高齢化となるとなかなか大変ですね。ですからやはり子どもを安心して産み育てられるという社会になることが、本当に活力を生むためにも大事です。そのためには、学校だけでなく、保育園・幼稚園だけでなく、地域ぐるみで皆さんが助け合っているような、相談相手がいるような、そういう社会をつくっていくためのリーダーが必要です。こちらにもいらっしゃると思いますが、さらに多くなって、長泉方式というか、あるいは清水方式といますか、あるいはこの地域の方式といますか。何しろ大橋先生も小児科の先生でピアノを弾かれますからね。運転だけじゃなく、ピアノも弾かれる。しかもラテンか何かですかね。非常に体が動きたくくなるような、そういうものを習っておられるという、しかも病院のすぐ向かいにそれがあるというので、いろんな幸運もありますが、要するにこの年齢になられても中は瑞々しいというそれがいいということなのです。その瑞々しい感性が町長先生方に共通しているので、私はそうした文化がこの地域の合計特殊出生率を高めている理由ではないかと思います。

これを日本のモデルにしていきたいというふうに思っております。差し当たっては、ふじのくに静岡県の子育て支援・応援をさらに広い場に広げていただきまして、なるほど富士山のところに育つ子はこういうふうな子になる、私もここで産み育てたい、私もここに住みたい、あなた、あちらに移り住みましょうよ、一緒に行こうよということになるような、そういう地域づくりに結びつくようお願いを申し上げたいと思います。ありがと

うございました。勉強になりました。

<発言者 5>

清水町で農業を営んでおります。

先ほどの話で、毎日富士山を眺めながら仕事をしているのは、もしかしたら幸せなんじゃないかと思ひまして、初めてここで気づかされましてありがとうございます。

私は、畑が約1ヘクタール、水田が約3ヘクタールで農業を行っております。1ヘクタールの畑の方では年間を通じて約40種類ほどの野菜をつくって、自宅でも販売、あるいは小売店やスーパーへの納品、そして直売所での販売と。それから水田の方につきましては、60アールで緑米を生産しております。この緑米はお酒に変わったり、地元のお菓子業者さんでお菓子に変わったり、レストラン、食堂などで扱ってもらっております。お米はほとんど直売で売っております。

そして農作業の請負というものをやっているのですが、今日の話は先ほどもあったような子育てとはちょっと違ひまして、農業から見た高齢化ということでお話をさせていただきたいと思ひます。

農作業の請負をしていますと、ほとんどの方がもう60歳、いや65歳、70歳を超える方がお客さんになります。清水町もどこの市町もそうだと思うのですが、非常に高齢化が進んでおります。そういう方たちが農業を生きがいを持って続けるためには、できなくなった作業を誰かに頼まなくてはならないような事態になっています。そういうときに経済的な負担が伴うと続けたくてもやめざるを得ない、後継者もない、じゃ誰がやるんだ、そういう問題はどうしても出てきます。私は農業をやっていて、そういう人たちが生きがいを持って、死ぬまで農業を続けられる社会がきたらいいなと思ひています。

別の話になりますが、私は、日本の文化、あるいは日本人の心、日本地域の和というのは、農業を源にしているのが非常に多いのではないかとこのように思ひています。そういう日本人の心、文化というものが、農地が荒廃することによって失われていくのではないかとこのことを非常に日ごろ危惧しています。ぜひとも行政にこういうところを見ていただいて、これから生きがいを持って農業をやっていける、そういうまちにぜひ支援をお願いしたいと思ひています。

<発言者 6>

裾野はこれといって昔からの伝統野菜などはないと思ひますが、種類がとてもたくさん

あって豊富です。お店のすぐ近くにJAの産直市があるものですから、そちらの方に参りますと、見たこともない野菜が毎回目に飛び込んできます。それらを利用していただきまして、カフェも運営していかなくてはいけないので、ランチを出し始めました。

そうしたところ、皆さんにとっても気に入っていただけまして、私も年齢が50歳で起業したものですから、起業するいきさつをお話しします。この年になりますと就職先がありません。お掃除のパートでも、若いお母さんたちに占領されたり、もうちょっと上の60、70歳の本当に高齢の方たちに優先してお仕事が回されたり、中途半端な年ですね、50歳というの。それだったら自分で仕事をしてみよう。ちょうど介護の家族を3名ほど抱えておりましたので、自分がどうしても休まなければならないときが出てきます。そういうときに同じような状況を持ったスタッフたちと一緒に仕事をしていくと、みんなで協力をし合いながらお店を運営することができました。

お客様にも恵まれ、スタッフにも恵まれ、とてもいい方々で今お店の中が充実しています。そんな中でここで今日お弁当も食べていただいたのですが、市の農林課の方から「食の都仕事人」の方に応募してみないかというお話をいただきまして、通るか通らないかわからなかったんですが、応募させていただきましたら、その中に入れさせてもらいました。それから今まで以上に食に関してもっと勉強しなくちゃいけないなど。知事からその表彰していただくときのお話なんかも聞きまして、静岡県内はとても海のものでも山のものでもすごくたくさんの種類のものがあります。とても恵まれている県だということを再認識しました。

そこで裾野に戻りますと、やはり裾野もすごくおいしいものがいっぱいありました。それらを活用しましてお店でもお料理を出していたのですが、店だけではもったいないと思うようになりました。

たまたま子育て支援の関係もやっており、ファミリーサポートセンターとか、子育て支援の方のお手伝いをしていたものですから、若いお母さんたちにも会う機会があります。そのお母さんたちに聞きますと、お料理の仕方がわからない、野菜のお料理がわからない、だからできているものを買ってきてしまう。じゃお料理教室をやってみようかと。じゃこの前も震災がありましたけれども、「乾物って使ったことある？」って聞くと、全然使ったことがない、乾物はもらっても、どうしても放っちゃって、なかなか切り干し大根でも、かんぴょうでも使いにくいと言うんですね。それじゃこれから災害があったときにも、そういうストックしておく野菜がいっぱいあれば、いざというときには子どもにも食べさせられる、栄養価もあるということで、お料理教室を開いたりしています。

そんなところで食育に関することを少しお勉強しようかなと思ひまして、インターネットの方でいろんなことを検索してましたら、農林水産省の方で「マジごはん計画」というのがありまして、「マジ」という言葉を、私たちの年代で使っているのかなと思ひましたが、「マジ」という言葉は今の若い子たちはすごく素直に受け入れてくれますね。

私たちが若いちょっとやんちゃな子どもたちに何かを食べてもらったときに、「マジうまいっす、おばさん」とかと言われて、ああ本当においしいんだねってちょっと感動したりすることもあります。その「マジ」を使って、本当においしいという「マジごはん計画」を農林水産省の方で、23年の3月から始めたということなので、私も「マジごはん計画」ではないですが、商工会の女性部に入れさせてもらったものですから、家庭の団らん応援隊ということで、若いお母さんたちにおいしいものをつくってもらおうということをやりました。

そうしたところ、結構好評になりまして、次は何をしようと。お母さんたちは小さい1歳、2歳、3歳という未就学園児たちがいますので、どうしてもつくっている途中で手を離すことが多いですね。今のちょうど時世に合って、節約、火を使わない節約料理、安全ということで、結構お母さんたちがつくっている途中で手を休めても次ができるようなお料理の御紹介をしています。

そんなことを今やっているのですが、農業の方とのお付き合いをしていますと、先ほどお話がありましたが、どうしても後継者問題があって、「こういうお野菜つくって」なんてお話をしますと、「なかなかできないんだよ、跡継ぎがいなくてね、もうそろそろ縮小しようかと思う」とか言われてしまいます。そういうお話を聞くと、じゃ私たちが何か応援できることはないかなということで、今商業の方と農業の方と一生懸命お話をしています。農の方のお手伝いは何ができるか、農から今度商の方に来たときに、加工品とか販売のお手伝い、そういうことをやっていくと、今度は観光にもつながるのではないかな。

先ほど富士山の話がありましたが、これは余談ですが、巨峰というブドウがあります。巨峰というと、どうしても山梨を想像されると思いますが、この前ちょっとある方から教えていただいたところ、巨峰の「峰」は富士山という意味だそうです。大きな富士山ですね。大きいブドウの粒の方が富士山、やはり神秘的な神秘的な富士山にあやかって巨峰という名前も、沼津が発祥ということ。天城の方が巨峰の発祥の地ということなので、こんなすばらしいものが静岡県の発祥ということをもっともっとPRした方がいいんじゃないかなんて思ったりしました。

先ほど若山牧水のお話も出ましたが、若山牧水、私も少ししかわからないのですが、富

士山の歌を結構詠んでいらっしゃるようで、五色の富士山を詠んでいらっしゃいます。富士山は、その日その日で色が変わりますね。先ほどの歌は青い富士山でしたけれども、赤い富士、黄色い富士、白い富士、いろんな富士山の色がありまして、お野菜にも季節季節でいろんな色があります。それらの色がちょうど五色の富士と重なりまして、今秋から冬にかけてはいろんな色のお野菜が出ます。

そんなことで富士山と農業はこれもまたつながるような気がして、今お話がありました農業後継者とかの問題もありますが、富士山のところでつくれるものというものは、とてもおいしいものがあると思いますので、これからどんどん皆さんに地産地消に限らず、おいしいものは観光で来ていただいて、もっと食べていただけるように、農業の方と頑張っていきたいと思います。

<発言者5、発言者6に対する知事のコメント>

期せずしてお二人関係するお話で、誠に味があるお話でございました。

実は先ほどいただきました発言者6さんのお弁当というのは30種類、私はもう一箱欲しいと言った。つまりどこに入ったかわからないくらいまかったということです。けどもう一箱はなかったのが我慢しました。さて発言者5さんはものづくりをされておりますから、やはり本当の持ち味は現場ですね。口数はそんなに多い感じじゃないですが、言うべきことは言われたと思います。しかも畑1ヘクタールで40種類の野菜をつくっている。非常に多いですね。これは大したものですよ。

お米も60アールの分は、緑米という日本の赤米と並ぶ古代米というのをおつくりになっていると。先ほど食事しているときに、緑米は餅米だという御説明に加えて、もともとお米は餅米だったと。実はすごい知識人ですよ。言わないだけです。さらに言えば、もともと芋のかわりだったそうですよ、お米は。だから今ねちねちしているでしょう。それで雑草の中の一つの稲粒を潰してすると芋に似ているということから、餅米として、当初は赤米というふうに言われていたのですが、陸稲（おかぼ）です。それがやがて水でもよく育つと。うるちにかわって、今ではおめでたいときにだけ餅米の赤米をいただくと。あるいはお雑煮にお芋を入れたりするとかいうのは、昔の自分たちが食べていたものをそういうハレの日のときに使うということだそうです。

そういう中の一つの緑米というのは、今の我々のごはんのメインの材料じゃないので、これをお酒になさったり、お菓子になさったりしておられる。こういうお米の種類を持っていることが、もしある種類が何かの病気にやられたときに、多品種を持っているという

ことが救いになるのですね。ですから非常に大事にされていると。

今日言われなかったですけども、実は発言者5さんと発言者3さんは同じ清水町でしょう。それで発言者5さんの田んぼを発言者3さんのお子様に通っていらっしゃる中学生がお借りして稲刈りをしているそうです。その姿をこそっと発言者3さんは見ていられて、ですから実は発言者3さんも先生ですが、いわば農業の稲刈りや、あるいは田んぼの田植えなんかも、きっとそこに入っているのではないかと思うのですが、農閑期と農繁期がありますから、農繁期のあるひとときを子どもたちに体験させるということで先生なんですね。

これこそ、これからの先生のあり方じゃないかと。教室の中でのことは万策が尽きていても、こういうところにいっぱいやることがあるんですね。万策なんか全然尽きてないということの証が発言者5さんのそういうお話で、しかも農業というのは日本の文化の基礎になる。つまり農業哲学をお持ちなわけです。

大地から離れて頭でっかちになったって、コンピューターをいじっていても、それだけじゃだめだと。だから大地というものにしっかり声を聞く、その土の語りかける声なき声を聞いて、いろいろな野菜を育てる。そして非常に難しい緑米のような、そういう古代のお米も育てられるような技術をちゃんと伝承していくということをなさっておられる。こういう哲学をちゃんとお持ちで、それを日本人がずっと引き継いできたので、自分もそれを継承していく一人として、さらに継いでいきたいというふうに思われているので、私は短い時間でしたけれども、とても大切なことを言われたと存じました。

そして発言者6さんは、その地場のものを使って、しかも私は発言者6さんのお話を冒頭でさっと言われましたけれども、50歳になって、子どももそれなりにひとり立ちするなりして、ふっと自分は何をするかといったときに、パートとしても実は仕事に限られてくるし、自分が社会に役に立つとか、世の中の役に立つとかということについてどうしたらいいかというちょっと迷いがあったと。そこでそういう人たちが集まって地場のものを使って楽しい風を起こすようなカフェでもしないということから始まったのが、やがて食堂にまで発展して、ついに仕事人までになったという、これは200人しか選ばれてないんですよ。

静岡県だけでホテル、旅館の数は4,000以上もあります。東京よりも多いです。そこでは必ずごはんを出しますね。旅館などでは朝ごはんを出します。だから人のためにつくっている料理人がいます。そして宿泊ではない普通のレストラン、たくさんありますから、万を超える。そこから200人しか選ばれてない。もう本当に芥子粒のような、宝石のよう

な存在なわけです。

御本人が言われましたけど、いっぱいたくさん食材があるということに気づかされた。実際発言者5さんだけでも、この畑で40種類もつくられている。そんなことができる場所がほかにあるかというぐらいですね。そして数えてみると、農作物だけで167種類できると。それは日本一ですから、都道府県の中で。そして海が500キロの海岸線がありますから、遠洋漁業も、それから沿岸漁業も非常に盛んで、その水産物を合わせると219品目にもなる、これ日本一ですから。春夏秋冬、常に旬の食材があるということですね。それを楽しく組み合わせ、自分たちの知恵を出し合ってランチ出してみたら喜ばれる。それは喜ぶに決まっています。旬のものを工夫して、そしてお互いに知恵を出し合って、一人でなくて皆で出し合っているのですから。

そして、それがたまたま主婦になって、これからは子どもの食事、あるいは旦那さん、あるいは御家族の食事を世話するときに、どうしていいかということで悩んでいる人にとっての先生役になっているわけですね。まず食材が日本一であり、それをつくれる人がいて、これを活用する人がいて、一番最後に農の方が今高齢化で跡継ぎがないなら私たちがというふうにもまでおっしゃっている。どういうものが欲しいかという需要者ですね。その需要する者、活用する者は、その向こうにお客様がいらっしゃるから、その人たちが楽しんでいただけるものをつくりたいと。

そういうつくりたいというものの名人（発言者5）がこちらにいて、使ってくれる人（発言者6）がいる。そしてつくる人がいると、これが結びついている。しかも私は、ここまで言うところとちょっと言い過ぎかもしれませんが、直売をされているという。もう一つ別な言い方をすると農協を通してないということですね。つまり農協さんに売ってもらうというようなことではなくて、つくって、はい終わりということではなく、つくったものをしっかりと消費者の方に届ける、直売をするというスタンスをとっておられる。そうしますと、もちろんマージンがなくなりますので、その分安くなりますね。ですから農協もこれはなかなか挑戦だということで、今までの体質どおりでやっていってもだめだということで、新しいことをやらんといかんということになってくるでしょう。農協にもプロがたくさんいらっしゃいますから、そういうような新しい動きになっていくと農業が活性化していくに違いないと。このお二人が組まれると強いと思います。

それがこの地域的な広がりを持ち、全県的な広がりになりますと、全国でこれだけたくさんさんの食材が出るところはありませんから、そしてそれを料理するのは毎日のことですから、特別のことではなくて、いわば家庭料理というそういう範疇でやりましょうと、余り

肩ひじ張らずに。それが発言者6さんのいいところです。私はこういうやり方で、自分の家で、しかも旦那さんを応援するという、家に帰ってきてごはんがおいしいことほど、最高の団らんになるものはないと思います。

ごはんというのは、単に餌じゃありません。これは愛情ですから、自分の愛情を形にできるような技を持っていれば、これは最高ですね。おいしくいただいとけると、子どもが、あるいは旦那さんが、あるいは家族の方がおいしく食べてくれるというのは、もうそれが最高の褒章なのです。

私は、仕事のことを言われましたけど、お金のやりとりは別にしまして、子育ては恐らく最高の仕事だと思います。そして農業はその次に大事な仕事だと思いますね。そういう仕事を回していくためにいろいろなヒントが皆さんのお話の中にありますし、特に最後の食の話は、今放射能の汚染でどうするかと言われているような時代だけに、どこかわけのわからんところから来たものではなくて、この自分の顔でわかっている方がどこでつくっているかということもわかって、それを料理しているということほど安心なことはありませんので、この中で回していくと。

回していけるのですよ、ここは。モノカルチャー、単一作物をやっているのではありませんので、多品種少量で、しかも最終的にはそれが健康にいいと。今日のお弁当には30種類入っていました。そしたら他の方が、「あっ、これで1日分の種類は全部食べたわ」とか、つまり種類を多く、恐らく三十数種類食べると健康にいいということを御存じなのでしょう。

それを農水省は何と言っていますか。カロリーベースで今自給率が40%だから50%に。カロリー過多でみんな困っています、多くの人。カロリーよりもバランスをと、そういういろんなものをバランスよく食べることが体にもいいし、いわば薬を兼ねると、薬膳料理になるということでございます。それを我々は誇っていいと思います。何も東京の基準に従うことはないです。

いろんな種類を食べられるところですから、食べたきゃ来いと、新東名もできますよと、新幹線もありますよと、東名もあります、1号線もあります、車でも全国から真ん中だからいっちゃい。何も持って来なくて、こちらで食べに来られたら、その人たちがついでに伊豆半島に行きましようとか、あるいは富士山の方に行ってみましようとか、いろんな観光資源を回らましようとか。牧水の記念館でも行きましようとか、そういうことです。

それからもう一つ最後に言われた色ですね。女性が弁当を開けた途端に「あっ、色とり

どり」と。実は色とりどりになっているのを意図的に発言者6さんはやっている。色が多
いということがいいと。

実は私は一昨年の12月に大田市場という東京で大きな卸売のところで、県の農産物をア
ピールするためのフェアをやったんですよ。その会社の社長さんが、うちの持っている
ものを、ちょうどそのころはミカンとかイチゴが出たときですから、それを並べたわけ
ですね。社長が何と言ったか、「おたくは色とりどりのものがあるので並べ甲斐がある」と言
われた。ある県などは、同じものをたくさん並べるということでしか場所を埋められない。
あなたのところは、こういうお花も含めてですけれども、いろいろあって、飾り立てられ
て、まるで富士山の形にできましたと言って喜んでおられて、すごいですね。見たかとい
うようなものですね、私なんかに言わせると。

219品目もあるから、半端じゃないと思っていますから、そういう色とりどりのところ
ろに、この多様性というものがありました。そうした多様性というものを富士山が、皆さ
んのお手元に和歌が入っているかと思いますが、皇太子殿下が沼津の御用邸で子どものと
きに育てられて、9歳までありましたからね、御用邸が。昭和44年までありました。

そのときの沼津から見た富士山の姿がずっと心に残っていて、登りたいと思われて、2
年前に登られ、そして昨年の歌会始のときにお題が光でしたから、光を詠み込まれたわけ
です。その光、「雲の上に太陽の光はいできたり」、これの2ページ目にありますね、「富士
の山はだ赤く照らせり」と。御来光が上がってくる。そうすると真っ黒な山が、最初は懐
中電灯がなければ足元がわからない。そういう中で上がってきて、茜色に染まる。そして
雲が白くなるわけですね。ふっと見るとまだ光が弱いですから、山肌が赤い。日が出ずる
国です、日本は。日が出ずって最初に当たるのはどこでしょうか。一番高い富士山の頂上
です。そこにぽーっと光が差すわけです。まさに日出ずる国です。日出ずったときにその
光が紅白の色をつくっているという歌をつくられたわけですね。

これを私はそこに載せたいと、ここに載せたいと思ったわけです。それで富士山百人一
首を編むのに1万以上の歌があるので、ここが一番最後に編者の名前が書いてあるでしょ
う。その4人の先生方に、「この百首選んでいただくのに、皇太子の歌を入れていただけま
すか」と言ったら、何とおっしゃったか、「何を言うか。政治が文化に介入するのはよろし
くない」、へへえっということになりまして、つまり歌がいいかどうかは1万以上超える中
から100選ぶわけですから、これは客観的に選ぶとおっしゃられました。

ところが、そういう文化の人たちというのは味があって、別枠で載せましょうと。あり
がとうございましたということで、早速載せてくださるということで、宮内庁にお尋ねを

申し上げて、宮内庁から殿下の方にお尋ねがあつて、もう皇太子殿下は喜んで載せてくださいと、こうおっしゃったわけです。それだけじゃなくて、御製がありますよと、天皇陛下の。明治天皇、大正、昭和、載せていただいているわけです。

そしてそれ以前の天皇はどうですかと言ったら、見たことがないと。明治天皇が初めて京都から関ヶ原を越えられた初めての天皇だと。感動して、御自身の一生の間に10万以上の歌をつくられたそうです。その中から宮内庁が選んだのが、その冒頭にあるやつです。

「あかねさす夕日のかげは入りはてゝて空にのこれる富士のとほ山」とあるでしょう。これは真っ赤な夕日が空に沈んでいった、そしてだんだん黒ずんできた。しかし夕闇の中に雪をかぶられたその輪郭だけが残っているという、やっぱり色があります、そこに。こういう富士山が夕焼けから始まってずっと並べて、最後は皇太子殿下の御来光で終わるという4万2000部刷ったのです。もうそろそろ在庫がありませんから、きょうは特別皆さんにサービス。

ともかくそういう自然の色というものは多様です。一色じゃない。その自然な多様なものを種類として40種類も畑でつくられ、緑米もつくられ、そしてそれを料理にして皆様方に色とりどり楽しくするというこれは実にすばらしい芸術です。だからこれ食文化は芸術ですね。子育てもいってみれば芸術です、人の感性を培っていくわけですから。で、その最高の芸術を我々は大事にしないといけないということを学んだのではないかというふうな感想を持ちました。どうもありがとうございました。

< 発言者 5 >

私は清水町で農業をしながら、子どもたちの給食に食材を提供する機会があるのですが、なかなか清水町だけで清水町の子供たちの給食を賄うというのは非常に難しいと思っています。できれば、あまり範囲を広げてはどうかと思いますが、静岡県の子どもは静岡県のお米や野菜で育てていけるというのがあれば、それはすばらしいのではないかなというふうに感じています。いろいろな規制があつてできない面が多々ありますが、ぜひ行政からその辺の支援をいただければ、もっともっと子どもたちがふるさと感を持てるのではないかと思いますので、よろしく願いいたします。

< 発言者 4 >

先ほど公会堂の話をしました、全国津々浦々公会堂は実は夜使われている回数が多いと思います。昼間使われてない公会堂がとても多いと思います。子育て支援の会場を借り

るとか、いろんな御苦勞があったと思いますけれども、地産地消ではないですが、地元でそこで何か活動していくことであれば、お金も発生しないでしょうし、そのこの地元での地域のつながりがさらに強くなる。特に納米里公会堂は吉川元教育長が納米里図書室をつくりました。そこはいつでも子供たちが、中高生も来られるようにという思いで本来つくられたものであります。確かに管理とかいろんな問題で難しいとは思いますが、各地にある立派な公会堂や、そういうところを開放していただけたらありがたいと思いますが。

<発言者5、発言者4に対する知事のコメント>

給食というところに地産のものを使うようにしたらどうか、これはなぜできないのかと思うぐらいです。今、食育の日というのをつくっておきまして、食育の1と9をとりまして毎日19日が食育の日で、これは土地でとれる食べるものをできる限り子どもたちに提供してくださいと。それを提供できる場合は給食ですから、制度的にできないのは、いろんな理由があるに違いありませんけれども、基本的にこの考え方に反対する人はいないと思いますので。そしてまた私は地域の方々にそういう文化を育てていただきたい。

自分たちが、自分たちの地域の人のもを使うということが、実は農業を励ますことになります。ものづくりの人たちがTPPでやられるとかと言われている。しかし、つくったものがだれによって消費されるかということが最後の勝負ですから、自分たちのものをいただくというふうにすると、そういう文化を子どものときから育てていくということが大事です。既に清水町では始まっているということですから、その近隣の地域からなるべくできる限りの制度的な運用を柔軟にして、私は基本的にこの考え方に賛成ですから、そういう方向でやっていきたいと思っています。

特に今なんかは四ツ溝柿をやはり子どもたちは食べるべきだと。次郎柿をあちらの、あれは松本治郎でしたか、森町の中村治郎でしたっけ。何しろ治郎さんという人がおつくりになられまして、あちらは次郎柿が柿だと思っている。こちらは四ツ溝柿でしょう。交換すればいい。おっ、こちらはこちらで、あちらはあちらで、やるなあとか、そんなわけで、同じ柿といっても種類が違ふし、大きさも違い形も違ふと、これがまたおもしろいわけです。そうしたことを通して柿もさまざまだと。

ミカンでもきょうの新聞で、何かミカンが来たので全部自分たちのミカンがやられたと。向こうから来たミカンはグレープフルーツですから、アメリカで温州ミカンつくっていませんからね。だから何となく自分のやられたのがアメリカのせいだと思って、投書に書かれている人がいましたけれども、それは完全な単純な誤解です。ですから、ミカン、柑橘

類といってもさまざまで、お米といってもインドネシアのお米はジャバニカと言います。ほとんどのお米はインディカです。

お茶と言っても、いわゆる緑茶でも、中国のお茶、これ緑茶で最高ですよ。うちが関係を持っている浙江省は龍井（ろんじん）茶とって最高の緑茶をつくる。しかしその最高品をもらっても、うちのお茶よりも飲まないですよ。我々は静岡のお茶を飲みます。同じ緑茶とってすらそれですよ。

食というのは味覚の文化ですから、こういう文化を育てるといのは本当に大切です。だからそれを給食でやっというということで、しかも日本食はやがて世界遺産になると。世界遺産にしようというので、農水省が今それをやり始めました。フランス料理とメキシコ料理が世界遺産になっています。これで日本食もやろうということなのですよ。その先生は日本における最高権威はだれかという熊倉功夫先生で、静岡文化芸術大学の学長先生ですよ。静岡県の先生です。ですからここが現場になります。そういう文化を育てていなくちゃいけない。食文化を育てていなくちゃいけない。給食はその重要な場になるということなので、発言者5さんは口が少ない、私は口が多い。二つ合わせて一人前というわけで、しっかりこれはやっといういけない。

それから公会堂を公開しなさいと。公会堂が閉鎖されていて何が公会堂だ、閉鎖堂じゃないか、こういうわけですね。そもそも公会堂は江戸時代にはないでしょう。あるいは明治時代の途中までなかったと思います。特にこういうものができるようになったのは、そこら辺にいっぱい走っている自動車のせいですね。つまりそれまでは公会堂がなくても、道で話せたわけです。あるいは井戸端で話すことができた。ところがそこは危ない。だから公共でみんなが集まれるところをつくらざるを得なくなって、こういう生涯学習センターとか市民文化会館がつくられて、そういうところで人々が集まるようになった。

本来、好きなときにちょっと訪ねていって、縁側に座って、それじゃちょっと隣のところにも行ってということで、公会堂のかわりになるところがたくさんあったわけです。そうしたものが今制度的に公会堂で、それをしかるべきところが管理して、いろいろな規則で何していると。規則があるのは大切ですけれども、しかし何のためにあるかと。そうすると市民のため、町の人たちのためにあるということで、そこにおろしていくということが、私はやっぱり基礎だというふうに思っております。ですから先ほど体操教室のところでも出ていましたけれども、やはり一番現場での声を吸い上げて、その運用の仕方を、例えば裾野方式、あるいは長泉方式でも、清水方式でもいいですけれども、そういう形で1か所でなくて、2～3か所になると強いと思います。

大体七五三の原則ってあります。7 足す 5 足す 3 は 15 でしょう。それで 15 あるとするでしょう。そのうち 3 人がやろうとすると 7 人が反対する、半分近い人がそんなことしないでいいじゃないですか、もう規則もないし、何でもうるさい人たちだというふうに言ったりする。あと 5 人ぐらいは、どっちもどっちだな、やっているねというような感じで、私関係ないわよというのが 5 人ぐらいいるわけです。七五三で、7 が反対、3 人がやる気と。

そうすると、どうでもいいと思っている人が 5 人ぐらいいるので、1 人 1 人、3 人で撃破していくわけです。そうすると、1 人 1 人、なるほど、やっぱりそれ大事だね、自分の子どものこともあるしというようなことで、5 人が全部 3 人側についたら、3 足す 5 は 8 でしょう。7 の反対者よりも多くなります。勢いがついていきますから、だから 15 の、大体 15 というのはこの東部から伊豆半島あたりですかね、それで 3 つ組んだら強いです。

今 3 人いらっしゃるでしょう。七五三の原則です。7 市町ぐらいは、何言ってるんだ、長泉町長は、あるいは裾野市長は、あるいは清水町長はうるさいななんて言ったり、反対だとか言う人は、必ずいるんです。いないのがおかしい、新しいことをしようと思ったときに、必ず抵抗勢力がありますから、そこがおもしろいところです。そこでどっちつかずのところがあるでしょう。どっちつかずの人って割と多いですよ。なかなか人生って決められるものじゃありませんから、そこを一つずつ説得力を持って、町の人も含めて成功するといくんですね。

だから今日はたまたま三つの市町が一緒ですから、ここから公会堂をもっと子育てや、あるいは町の方々のコミュニケーションをつくる場として、本来の公会堂になるように、しかも昼は使われてないことを知っているんですから。そういうようになればいいなど。まるで人ごとみたいで申しわけありません。応援をいたしますということを申し上げておきたいと存じます。ありがとうございました。

< 傍聴者 1 >

七五三の話はとてもわかりやすく、また楽しいいい例でございました。今日は平成 15 年の北國新聞をお持ちいたしました。それは、実は知事がここに出ていらっしゃる。覚えていらっしゃいますでしょうか。北國新聞 110 年記念の新聞でございます。私は金沢の生まれですから。それで今日は知事にお目にかかりたくて来ました。

私が申し上げたいのは、私もまさか静岡県人になると思っておりませんでしたけれども、転勤で参りまして、このすばらしい富士に本当に喜びました。それで皆さん登山にたくさ

んいらっしゃいますけれども、現状は非常に汚れておりますでしょ。そしてその汚れている富士山を世界一にということは、とても私は恥ずかしいことだと思っております、そのことを意見として申し上げたかったです。

もう一つは浜岡原発のことでございますけれども、いよいよ縮小に向かっていかざるを得ないと私は思っております。本当にこれがまた再開するとかということになりますと、万が一福島のような事故が起きましたら、ただごとで済みませんので、それも心配しております。知事はいろいろお考えだと思っておりますので。

この間風力発電のことで何か反対されておりましたね。ニュースで見ました。風力発電ですから、やはり風の強いところをお選びになると思いますけれども、あれはどうなったのかなと案じておりました。今おっしゃったとおり、やはり反対が出ますのでね。

それからもう一つは柿田川、東京から帰ってまいりましてから柿田川を守る会、ナショナルトラスト運動のお手伝いを少々いたしておりましたことは、本当に清水町は高いところから見ますと、あの柿田川だけが、もう木がふさふさとして、すばらしい場所です。

東京の大震災、大正12年の、あのときにどこへ逃れた人が助かったかといいますと、被服廠は広がったのですが、3万人の人が逃れて、3万人亡くなっています。それから400メートル余り、江東区でございまして清澄庭園というお庭がございまして。これは三菱財閥の岩崎さんの別荘です。今は公園になっています。そこへ逃れた2万人は一人も亡くならないで助かっているという事実があります。だから私はぜひとも柿田川の今現在ある木の上にもっとどんどん木を植えていただきたい。本当にいざといったら、そういうふうにとくさんの方が助かっているということを感じまして、この3点を申し上げたかったです。

それからもう一つはブロック塀が、日本は狭い、たった50とか100坪の家にブロック塀をいっぱい立ててありますよね。だからあれは本当に何とか禁止して、木に植えかえるとか何かいい方法がありませんでしょうか。その辺のことを思いました。きょうはありがとうございました。

<傍聴者2>

裾野市在住で障害者福祉の仕事に携わって13年、14年ぐらいになります。先ほどの発言者皆さんのお話、子育て支援の話でした。

それで私、発達障害、自閉症のことについて勉強しております、発達障害、AD/H

D、自閉症、協調性運動発達障害、学習障害、発達障害といいますが、今発症率が文部科学省の調査では、通常学級の中に実に 6.4%いるというのですね。6.4%というと少ない数字かと思いますが、これ 16 人に 1 人ということは、通常学級の中に 2 人は発達障害の疑いのある子供がいるということです。

それで静岡県の発達障害の支援といいますと、静岡市には発達障害支援センターが二つあります、政令指定都市ですから。浜松にも政令指定都市ですから一つあります。ところが東部地域には発達障害のことを相談するところがありません。

それで大それたお願いですけれども、ファルマバレー構想という中で、医学部を誘致していろんな医学産業とかを発達しようという中で、児童精神科、発達障害を研究する部署をつくっていただきたいなど。アメリカのノースカロライナというところで TEACCH という取組をしています。実はこの TEACCH というのは社会モデルのことですね。地域、行政、福祉、教育、医療、これらのものが連携して発達障害をサポートしていきましようということなのです。せっかく医学部をこれから誘致してやりましようということなので、僕は地域のノースカロライナ化といっているのですが、そういったものを念頭に入れてやっていただきたいなど、お願いでございます。

それから、サービス管理責任者というものがあります。障害福祉分野の中で。今、県の認可を受けるのに、サービス管理責任者を置かなければいけない。そのハードルがちょっと高いですね。10 年以上の経験者、もしくは社会福祉士になってから 5 年間。今僕は小さな事業所で働いているのですが、その県の認可を得るためのあれが少ないということなので、今回草の根で本当に頑張っている小さな施設がありますので、その辺のハードルをもうちょっと下げていただいて、年 2 回研修をすとか、そういったものをしていただくと、草の根で頑張っている福祉に携わっている人間が非常に助かると思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

<傍聴者 1、傍聴者 2 に対する知事のコメント>

まず最初の方からの御質問ですけれども、金沢から移り住まわれたということですが、金沢には白山がございますね。白山、それから富山の立山、そして富士山が三名山と言われるわけですが、富士山も自然遺産として最初登録しようとしたときに汚いということがあって、今は、私去年登ったのですが、登山道にごみはもう落ちていませんね。トイレも大分改良されまして、それからまた昨年ですと 40 万人の人が登ったわけですが、山梨県側も入れてですけれども、看板も外国人にもわかるように、アルファベットとハング

ルと中国語で書こうとか、今富士山をきれいにしようという運動は相当実を上げてきました。まだ大きな産業廃棄物みたいなものはすぐには取れないのでございますけれども、もう一変するぐらいに今美化運動が進んでいるということを御報告申し上げておきたいと思えます。

それから浜岡原発は、今とにかく津波の対策を、彼らはしていたと書いていたけれども、できていないことがわかりましたので、1,700億をかけて12メートルを18メートルにして、1.6キロそれを覆うということで、今津波が来ても、差し当たっては大変なことですが、来年の12月までには津波の対策をやると言っています。それを真面目にやっている、恐らく日本には54基の原発があるのですが、一番のところですから、そこが安全だということですね。津波に対しては安全になるということです。だからといって、じゃ原発が安全かという、御心配のように安全ではありません。

皆さん、定期点検というのは、点検していると思っているでしょう。もちろん点検もします。燃料棒を入れ替えるのです。古いやつを出す。そして燃料プールに入れる。燃料プールに入れるのは、まだ使えるものを入れているのです。大体7割ぐらい使って入れます。ですから5カ月出しているのですよ。これは非常に危険です。だからこうしたものを冷却し続けられなければえらいことになるわけですね。

最終的にそれはどんどん新しい燃料棒を入れるということですから、どんどん増えていきますけど、じゃどこに持っていくのですか。六ヶ所村だと。六ヶ所村は置き場所がもうなくなりまして、そういうことになると、だんだんごみを出したままでいいのですかといった、そういう問題も出てきますね。ですから私は津波対策をしなくちゃいけないと、すぐにでも。安全第一で一生懸命やっていますから、差し当たってやるべきことは彼らがやっていると。

だからといって、それで安全が保証されているわけじゃないので、止めるといっても、そこに安全でないものがある限りは危ないから、だんだん、だんだんそれを高めていかななくてはなりません。後ろを見て、怖いから見ない、停止しているから大丈夫というのではなくて、そこに真正面から見て、私は中に入って見えていますから。だから文字どおり科学的に、しかも私もたくさんの知識人とのネットワークもございますので、日本の最高のそういう権威を持って、その目で見ると。国が言っているというのと意味が違います。我々の目で浜岡原発を見ると。一つでも安全でなければ動かさない。そこです。

永久停止しようと言っても、停止しても危ないのですから、一番怖い人はだれですか、そこで働いている人です。そこで働いている人は静岡県民です。彼らのことを守らなくち

やいけません、私は。彼らは敵ではありませんから、その人たちはしっかりと仕事をしてくれなくては困る、安全のために。そういうことで、徹底的に安全管理に努めますから、これは時間がかかりますけれども。はい、そういうことです。

風力発電は、熱川のところのもので動いてないものがありますね。だから動いているものを、例えば東伊豆町の3台動いています。子どもも見に来ている。ただ、よく傷みます。ただ、3月11日以後はやっぱり風力とか地熱とか、温泉とか太陽光とか、こういうものについての認識が高まりまして、伊豆半島における風力発電については、地域の調査をしました。そうすると風力発電についても3割ぐらいの人が、要するに地域の力がありますけれども、自然エネルギーに対しての理解がぐっと深まっております。

だけど今のところは風力発電の近くにいると、ビヨーン、ビヨーンという音が聞こえますし、チカチカ、チカチカするという大きなものは70メートルの高さのもので、大きな羽が回るので、光を遮ったりするでしょう。影ができますね。いろいろな障害もあるということを知っていますので、私は障害があるようなことがわかれば、これは撤去するというぐらい厳しい条件のもとで、差し当たってエネルギーがないと電気もつきませんので、料理もできない、冷蔵庫の物が腐るといようなことが起こります。この両立を図るために、今原発から逃れて、今原発抜きでこの夏乗り切りました。冬も乗り切れるかわかりません。しかし新しいエネルギーがなければ我々の日常生活はかないませんから、その風力発電は今おっしゃったような可能性の一つではあると。風のいいところ、人のいないところだと、それはいいと思いますね。

それから柿田川ナショナルトラスト、これはついに天然記念物になりました。こういうものが「富士山百年水」「東洋一の柿田川湧水」とありますけれども、こういうところで私なんかもこれただで飲めるのかと。100円かかっているかもしれませんけれども、「富士の根を幾歳潜る白雪の清き水湧く柿田川かな」というこういうものがここにあるのですからね。大したものですよ。ナショナルトラスト運動頑張ってください。応援しております。

それからブロック塀は、当初はモダンだと思ったでしょう。今これまででき過ぎちゃうと、何だかもうということになって、かといって、これ皆個人で入れてらっしゃいますから。できれば一つの方法ですけれども、壁を塗ると。そして上に瓦をずっと置くだけで全然違いますよ。ちょっとお金かかりますけどね。お寺のあれみたいになるわけです。急に、何といたしますか、まあ嫌だと思ったのが、まあいい高価な塀つくられてなんていうようなことで、そういうふうなあるものを上手にちょっと化粧し直したりすると。ブロック塀もそれなりの役割を果たす面もありますから、そのままが非常に気になるということであれ

ば、ある地域においてはお互いにいろいろと出し合って、壁を塗って瓦を入れると、内側はブロック塀は植栽で隠すこともできるかもしれません。外側は公共ですから、公共的なところは、やはり外から見る景色は公共のものなので、自分の家とはいえ、そういう意識を持つことが大事ですね。金沢などはそういう意識レベルが非常に高いですね。感心しています。

それから次の方、おっしゃるとおりで、東部に発達障害の方の施設がないというか、相談所がない、足りないということで、差し当たって医学部は時間がかかりますから、それは長期的に考えなくちゃなりませんけれども。そして発達障害の方が増えているということは私も実感している。ただ、東部はお母さん方が毎日のことですから、大変困られているという御家族の方の声も聞いておまして、何とか簡単に行けるようなところにそれを持たなくちゃいけないということで、今のところ三島だと思いますけれども、そこにまず人を派遣すると。来年ぐらいは、その人を探さんといかんですね。今おっしゃったような資格が必要だということなので、その資格についても余り杓子定規にならないで、運用の仕方で、とにかく力のある人がそこで発達障害のお子さんや、あるいは御家族の力になれるような仕組みを今考えているところです。差し当たって人を増やすというふうにいたしました。

ともかく東部に、わざわざ静岡まで来なくちゃいけないとかいうようなことが現実大変困っておられるという方が、ついこの間も来られまして、もう涙なしに聞けないような話でしたが、ともかくそれに今動き始めておりますので。しかし今日おっしゃった中長期的にそうした専門的な人たちの拠点をあわせてつくるということは視野に入れていいとは思いました。医学部の件は進んでいるのですが、相手のあることなのですぐにというわけにはいきませんので、できるところからやらせてください。ありがとうございました。

<傍聴者3>

私の主人はALSと言って、進行性の難病の筋萎縮性側索硬化症という病で、今呼吸器を付けて自宅で療養しております。主人は落ち着いていますので、今のところは笑顔でいてくれますが、お友達の方が、今月になってちょっと体調を崩しまして、急遽呼吸器を付けました。ところが奥様が、腰が痛くて、とても介護に苦しんでいるんです。そんな方からちょっとファックスをお昼にいただきましたので、ちょっとそれを読ませてほしいです。

「難病患者の入院に関する要望。重度障害により手足がほとんど動かすことができず、言

葉及び呼吸も不自由で、伝えたい思いがなかなか伝えられないとき、夜間担当の看護師さんの見回りによる手助けだけでは十分でなく、首の位置や体位の不十分なことにより、患者は一睡もできない場合があります。そんな際にヘルパーさんによる付き添い、普段よく接しているヘルパーさんのことですが、国や県の制度としてあるなら、どんなに助かることでしょうか。どうか深くお考えいただくたく、お願いを申し上げます。」

こんなファックスをいただきましたので、すみません、聞いていただいてありがとうございました。ぜひ読んでください。

<知事まとめ>

長い時間お聞きいただきまして、どうもありがとうございました。今日は社会の地域力をつけるための方、また子育て支援・応援をされている方、農業の方のお話を承り、そして今日は今まで広聴でやった中で、女性の数が男性を上回った初めてです。これは大変印象的でした。

そしてやっぱりお話が具体的ですので、別に男の方が具体的でないというわけではありませんが、今社会が直面しているような問題に対して、非常に体でわかっている、自分の経験でわかっていることをお話しくくださったので、この点、今回の広聴会における私の収穫であったというふうに思っております。

最後に、今お困りの女性も、お友達のことも含めて言っていただきましたので、すぐに何ができるかわかりませんが、差し当たってヘルパーさんがいると助かるということなので、人の命にかかわることなので、そこをしっかりと一度見させていただきまして、できることならお助けできればというふうに思っているところでございます。

今日は2時間以上の時間にわたりまして、来ていただきましたそれぞれ三つの市町の方々、どうもありがとうございました。また会場の皆さんも本当にありがとうございました。